

2005年活動報告

お客様と社会にもっと喜ばれる、安全運転普及活動の輪を広げる

Hondaは「人間尊重」という企業理念、「より豊かなモビリティ社会の実現」というビジョンのもと、「人」「クルマ」の両面から、交通事故削減に向けた活動を展開している。2005年、安全運転普及本部は次の4つの重点策に取り組んだ。

全国の販売拠点を通してお客様を交通事故から守る教育・啓発活動

今年、全国の四輪販売会社のレインボーディーラー認定店(約2400店)では、お客様を対象にした「安全ミニ講習会」「ドライビングスクール」などの安全講習会開催に力を入れた。安全講習会では、基本となるカリキュラムから、独自のアイデアや地域の交通特性にあわせた項目などを盛り込んで実施している販売会社も増えた。実技指導や安全アドバイスを行う指導者はHondaの安全運転指導の社内資格、「セーフティコーディネーター」(約1万8000人)、「チーフセーフティコーディネーター」(約3500人)を取得した四輪販売会社のスタッフが担っている。



四輪販売会社のレインボーディーラー認定店では、「安全ミニ講習会」「ドライビングスクール」などの開催に力を入れた



二輪販売拠点ではホンダドリーム店約30店が「セーフティサポートディーラー制度」の認定を受けた

※1 レインボーディーラー=セーフティコーディネーター資格の取得、チーフセーフティコーディネーター資格の取得、安全運転普及活動の実践という3つの必要要件を満たした販売会社が拠点ごとに認定されるもの。第1ステップのグッドレインボーディーラー店と、第2ステップのベストレインボーディーラー店がある。セーフティコーディネーターとは、お客様に、店頭などで安全アドバイスをできるHondaの社内資格を持ったスタッフで、チーフセーフティコーディネーターは、安全講習会の企画・立案、開催の実技指導などができる、セーフティコーディネーターのリーダー的存在

Hondaの教育プログラムと教育機器の研究・開発と開発ソフトの提供

今年、高齢ドライバー用と企業ドライバー用の新教育プログラムを開発し、現在、試行しながら効果確認などを行っている。新プログラムのコンセプトは、「教え込む」のではなく、「気づかせる」教育。映像機器やシミュレーターを導入することで、受講者が自分の運転行動を映像やデータを通して、客観的に振り返ることが可能なプログラムをめざしている。また、教育プログラムなど開発したソフトを社会に提供することも大切な仕事と考え、地方公共団体などの連携のあり方についても研究していく。



新たに開発された教育プログラムは受講者が自分の運転行動を映像やデータを通して、客観的に振り返ることが可能になる

企業、地域の交通参加者を交通事故から守る活動

交通安全教育センターでの取り組み

Hondaの交通安全教育センターは全国8カ所(もてぎ、和光、埼玉、浜松、浜名湖、鈴鹿、福岡、熊本)で参加体験型実践教育の基地として活動を展開している。各種の運転研修会・スクール、指導者育成研修会などへの今年の参加者数は約7万人。各企業、団体の指導者を集めた交流と情報交換の場「トラフィック・セーフティ・フォーラム」は今年も、もてぎ、埼玉、浜名湖・浜松、鈴鹿、熊本の5カ所で開催。

教育内容、教育手法の研究開発については、新しく映像機器などを導入した企業ドライバー向け新プログラムの開発を進めている。



全国8カ所にあるHondaの交通安全教育センターが企業の交通安全活動を支援

Honda各部門指導者の指導力向上の取り組み

今年も海外を含むHonda社内内の交通安全活動の指導者を集めた「第9回セーフティジャパン」

地域や業界との連携

1993年、三重県鈴鹿市に設置した「鈴鹿モビリティ研究会」の活動は、年代別交通安全教育を地域密着型で取り組むモデルケースであるという評価を得られるようになった。



「第9回セーフティジャパンインストラクター競技大会」ではHondaの各部門の指導者が高い運転技量を競った

インストラクター競技大会」を鈴鹿で開催。交通安全教育センターのインストラクターや販売拠点のセーフティコーディネーターなど、Hondaの各部門を代表する選手が、運転技量の正確さを競った。



鈴鹿市で普及が始まった「あやとり」長寿編

この研究会の成果の一つは、鈴鹿市の小学校など現場の先生方の協力を得て開発した小学校3、4年生向けの交通安全教育プログラム「あやとり」、4〜5歳児対象「あやとり」ひよこ編、小学校高学年向け「あやとり」自転車教室」と、これらを活用する指導者の育成である。

「あやとり」の活動をさらに広げるために、鈴鹿、狭山、浜松などHondaの製作所のある地域で、まず社員の子どもの対象に展開し、地域の理解を得ながら浸透させていきたいと考えている。

初心運転者育成の指導力アップへの協力



第5回全国自動車教習所教習指導員安全運転競技大会には過去最多の196名の教習指導員が参加

自動車の教習所の指導員の自己研鑽、教習所間の交流促進を目的として、今年も「第5回全国自動車教習所教習指導員安全運転競技大会」を鈴鹿で開催。前回は上回る196人の教習指導員の参加があった。

海外の安全運転普及活動の拡大

海外での安全運転普及活動は今年、ロシアが加わり、現在20カ国26現地法人と、その活動は広がっており、安全運転普及本部はこれらの現地法人のサポートにあたっている。

四輪では、今年中国とロシアで安全運転の教育・啓発活動が大きく進展した。中国南部にある広州本田は交通実態調査と分析から、交通状況、ヒヤリ体験、事故経験に沿った教育内容などを決め、従業員対象の講習会を開催。ロシアのHonda Motor RUSでは、販売拠点に日本の「レインボーディーラー制度」を取り入れた体制作りを開始した。

二輪では、トルコのHonda Turkiyeがトレーニングコースを活用し、警察、企業、一般ライダー対象の実技講習会を始めている。



中国でも安全運転の教育・啓発活動がさらに拡大



トルコ・Honda Turkiyeのトレーニングコース